

(様式1・小学校用①)

# 令和3年度 学 校 評 価 報 告

草加市立瀬崎小学校

(令和4年1月29日作成)

<b>1 学校教育目標</b> 学校教育目標 心豊かで たくましい子  目指す学校 「子どもたち一人一人を大切にし、笑顔と活気あふれる学校」	
<b>2 重点目標・努力目標</b> ＜笑顔いっぱいの学校をつくる＞ 「学びいっぱい（学んだことを生かす）」 「たくましさいっぱい（健康な体を作る）」 「やさしさいっぱい（思いやりの気持ちを育てる）」	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果 ○幼保・小・中で連携しながら、一貫教育を推進し、研究発表会を行った。 課題 ●知識構成型ジグソー法、思考ツールの活用により、主体的・対話的で深い学びを授業の中で実践。

4 評価表 ※評価基準【A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である】				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校の重点課題解決に向け、ワンチームで全教職員が解決に向けて取り組んだ。 ●「たくましい子」の取組で、体力の低下が課題である。コロナ禍ではあるが、工夫しながら全校で体力向上に取り組んでいく。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○瀬崎中学校区の目指す児童像の実現に向け、知識構成型ジグソー法での研究発表会を行うことができた。 ●今年度の研修を生かし、成果と課題を引き継ぎつつ、次年度も「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて研修を推進していくようにする。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○養護教諭を中心に、全職員が共通理解、共通行動の下、新型コロナウイルス対策を全職員で行うことができた。 ●児童の外遊びにおける、安全動線の確保を行ったが、東運動場も同様に安全確保を行う。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○分電盤の交換、西校舎児童玄関下足箱入れ替え等、施設の改善を図った。個人情報管理も進み、テレワークにおけるセキュリティー強化が進んだ。 ●プレハブ校舎の老朽化と雨漏りの改善を図るために、関係各所と調整中である。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校運営協議会、学校応援団、PTA、ふれあい推進室と連携し、地域と一体感のある学校教育を推進した。 ●新型コロナウイルスにより、学校公開日における学習発表会が実施できなかった。地域に広く教育活動の公開をする他の方法を模索していく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○瀬崎中学校区の研究発表会を行い、幼保小中を一貫した教育の成果を発表することができた。 ●中学校、幼稚園、保育園共に、新型コロナウイルス感染拡大防止のために交流活動に制限があった。時機を見極めながら、活動を行う教育課程を組む必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<p>○新型コロナウイルス感染拡大防止により削減した時数をICTを効果的に活用することで、補完し実施した。</p> <p>●学習指導要領の充実に向け、教科横断的な教育課程の実現を図り探究型学習を推進していく。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの観点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<p>○校内研修の充実により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けICTを活用した授業改善を行った。</p> <p>●各主任を中心に、各教科等の情報を共有し、各教科における指導力のさらなる向上を目指す。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<p>○授業研究会に向け、校内が一丸となって研修に取り組んだ。その授業研究会における外部指導者の指導により道徳教育の理解が深まった。</p> <p>●児童・保護者への適切な評価計画を工夫、改善する。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	B	<p>○外国語活動、外国語もともに、ALTと連携しながら授業力を向上させた。</p> <p>●瀬崎スタイルの作成、配布はできたが、学校全体での完全実施には至らなかった。次年度の実施をめざす。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>児童会活動</li> </ul>	A	<p>○オンラインでの活動を併用しながら、時機に応じて屋外における全校集会を実施することができた。</p> <p>●学級における特別活動を充実させるために、学校全体で統一の取り組みを増やす。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<p>○3年生の枝豆栽培における地域人材の活用、5年生映像学習体験等、より一層教育活動を充実させた。</p> <p>●指導と評価の見直しを行い、教科横断的な計画に改善する。パリポリドリルの活用も計画に位置付けていく。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、児童理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	B	<p>○生徒指導委員会を中心に共通理解・行動の下、指導にあたることができた。また、課題のある児童については学校全体で情報共有し、対処した。</p> <p>●関係諸機関とより一層、連携を図っていく。</p>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>中学校との連携</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<p>○特別活動全面実施を受け、(3)のキャリア教育の位置づけ、キャリアパスポートの全校実施を行った。</p> <p>●各学年における発達段階に応じた「キャリア教育」の実施を行う。</p>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	A	<p>○教育支援室、かがやき特別支援学校との連携により、適切な指導・支援を行った。</p> <p>●校内における情報共有と支援体制のさらなる充実を図る。</p>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	B	<p>○読書活動の充実を図り、読書に取り組む児童を増やし貸し出し冊数12000冊を達成した。</p> <p>●学校だけでなく、家庭でも読書に取り組む活動の全校的な習慣化が必要である。</p>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	A	<p>○情報教育担当を中心に、研修をすすめ、授業におけるタブレット活用が進んだ。</p> <p>●情報モラル教育をさらに推進するために、教育活動に位置付けていく。</p>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	B	<p>○人権標語、人権の木取組に参加し、人権感覚の育成に努めた。さらに教職員における人権研修を実施した。</p> <p>●人権感覚育成プログラムを各学級で必ず実施する。授業で確実に行われたか見届けをする。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色 ある 学校 づくり	①地域の力を学校に	・地域の安全と学校の安全確保	A	○ふれあい推進室やPTA、あいさつ運動、学校運営協議会と連携し、登下校の見守りや放課後の安全確保ができた。 ●4組織と連携し、現在起案中のわんわんパトロールを地域の安全に位置づける。
	②体験活動の充実	・地域の方の専門性を生かす	B	○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、地域との体験活動の実現は不可能であったが、次年度に向けた計画の確認を行うことはできた。 ●さらなる活動の充実にむけ、新たな体験活動の計画を教科横断的に位置付けていく。
	③幼保小中連携の充実	・15年間を通じた教育課程の編成	B	○研究発表会を契機に、より一層深まった連携を次年度も継続して行うように新たな交流を位置づけられた。 ●時機を見て実際の交流が行われるよう、教育課程の見直しを柔軟に行っていく。

### 5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- (1) GIGAスクールの推進によるタブレット端末の積極的活用と、オンライン授業の充実により、時数削減があった分の学習内容も定着させることができた。
- (2) 校内行事の精選、放課後会議の削減等を行い、負担軽減を行った。また、年休取得促進システムの構築、定時退勤日の設定、テレワークの推進等を行うことで、在校時間の削減を図ることができた。
- (3) 教育支援室、かがやき、児童クラブ、児童相談所等のさまざまな関係機関と連携を行い、さらにSSW、SCの活用も行うことで教育相談の取組をより一層推進させた。
- (4) 瀬崎中学校区の幼稚園、保育園、小学校、中学校とともに、幼保小中を一貫した教育の研究発表会を通じて連携をさらに強化し、深めることができた。
- (5) 学校関係者評価、保護者評価では、今年度も落ち着いて授業に取り組む児童の姿や、熱心な教員の指導も良く、学校全体の雰囲気が良いとの評価をいただいた。

### 6 次年度の改善策

- (1) 学習指導要領の充実に向け、教科横断的な教育課程の実現を図り探究型学習を推進していく。また、継続して知識構成型ジグソー法、思考ツールの活用を行い、主体的・対話的で深い学びを授業の中で実践する。
- (2) 外部機関、教育委員会、地域等と連携し、不登校児童の数を減少させる。また、課題をもっている児童への対応を全職員で共通理解の下、組織的に行っていく。
- (3) 業務量削減のため、思い切った改革が必要である。会議のペーパーレス化、集金システム改善等を推進することで、時間と予算の削減を図っていく。
- (4) 読書活動の充実に向け、さまざまな取組を行ってきたが、家庭における読書が定着していない。中学校区で連携し、家庭で実践できるよう読書活動を位置付けていく。
- (5) 幼保小中を一貫した教育に向け、今後も瀬崎中、高砂小、せざき保育園、谷塚幼稚園との連携をより一層、深めていく。